

平成30年度

宮崎県立高等学校
一般入学者選抜学力検査
結果分析報告書

宮崎県教育委員会

Ⅱ 一般入学者選抜学力検査の全体状況(全日制)

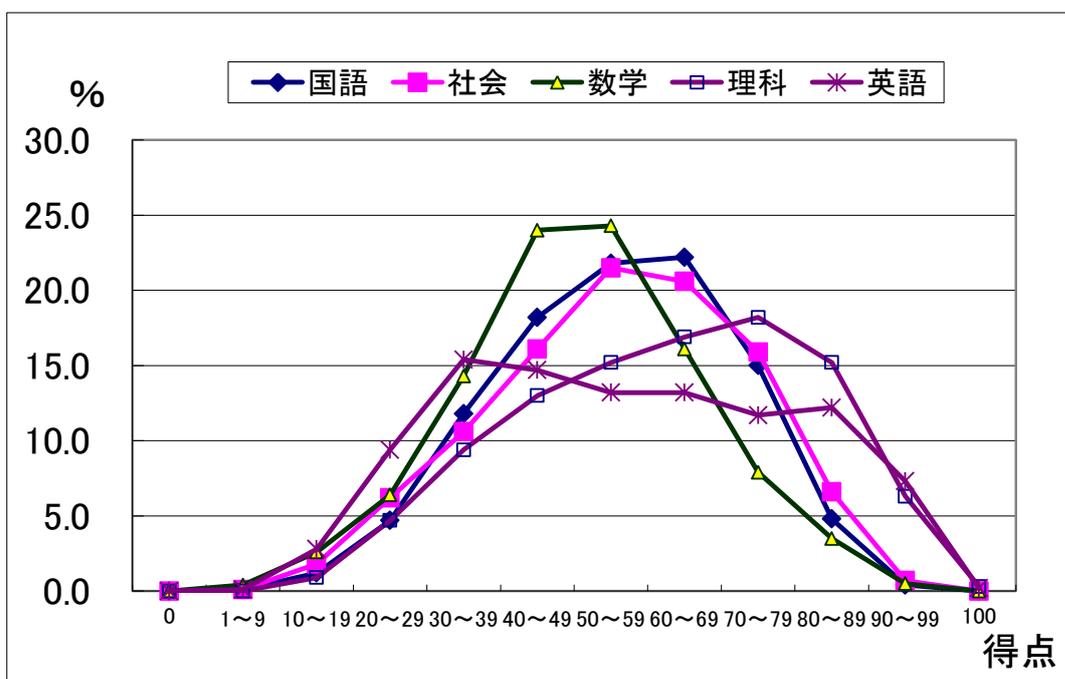
1 合格者の5教科総合得点度数分布表

得点 区分	0 ～ 99	100 ～ 149	150 ～ 199	200 ～ 249	250 ～ 299	300 ～ 349	350 ～ 399	400 ～ 449	450 ～ 500	計
人数	26	258	585	864	1,038	979	761	287	14	4,812
%	0.5	5.4	12.2	18.0	21.6	20.3	15.8	6.0	0.3	100.0
昨年度人数	28	228	531	770	1,135	1,024	869	400	25	5,010

2 合格者の教科別得点分布表

得点 区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%								
100	0	0.0	0	0.0	1	0.0	14	0.3	11	0.2
90～99	20	0.4	33	0.7	24	0.5	305	6.3	349	7.3
80～89	229	4.8	316	6.6	169	3.5	731	15.2	586	12.2
70～79	720	15.0	764	15.9	378	7.9	875	18.2	561	11.7
60～69	1067	22.2	990	20.6	776	16.1	815	16.9	635	13.2
50～59	1047	21.8	1034	21.5	1171	24.3	731	15.2	634	13.2
40～49	875	18.2	775	16.1	1154	24.0	625	13.0	705	14.7
30～39	569	11.8	510	10.6	688	14.3	450	9.4	739	15.4
20～29	224	4.7	299	6.2	306	6.4	224	4.7	453	9.4
10～19	58	1.2	86	1.8	127	2.6	42	0.9	135	2.8
1～9	3	0.1	5	0.1	18	0.4	0	0.0	4	0.1
0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
最高点	97		98		100		100		100	
最低点	6		8		4		10		8	
平均点	55.2		55.5		50.4		62.2		56.3	

3 合格者の教科別得点度数分布グラフ



英 語

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	2	0.3
90～99	52	8.1
80～89	85	13.3
70～79	85	13.3
60～69	94	14.7
50～59	69	10.8
40～49	100	15.6
30～39	93	14.5
20～29	49	7.7
10～19	11	1.7
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した640人(13.3%)の結果である。

*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	1	No.1	98.9
		No.2	79.8
		No.3	81.6
	2	①	65.6
		②	95.7
		③	64.1
	3	No.1	76.1
		No.2	70.2
		No.3	60.3
小計		76.7	
2	1	①	96.1
		②	59.5
		③	92.8
		④	83.3
		⑤	59.4
	2	49.7	
	小計		73.5

大問	小問	正答率	
3	1	A	64.5
		B	48.8
	2	83.1	
	3	27.0	
小計		54.9	
4	1	1	66.0
		2	56.5
		3	69.7
	2	(1)	67.8
		(2)	59.0
		(3)	38.3
	3	(1)	31.9
		(2)	39.8
小計		52.3	
5	1	(1)	63.9
		(2)	50.4
		(3)	44.2
		(4)	50.8
	2	66.2	
	3	31.7	
	4	60.9	
	5	1	11.3
		2	5.9
		3	28.0
6	59.7		
小計		46.5	

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1 リスニング	66.9	73.4	71.6	71.8	76.7
2 対話文読解	72.0	64.0	75.3	79.1	73.5
3 文章読解・活用・表現	51.6	45.4	54.0	58.9	54.9
4 表現力	39.6	55.6	57.9	63.1	52.3
5 長文読解	31.5	43.3	47.1	46.4	46.5

2 分析結果の概要

合格者の英語の平均点^(※)は、56.3点で、昨年度と比べ下降した(昨年度60.2点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,812人のものである。

〈表1〉について、40点台の人数が全体の15.6%で、最も多い(昨年度は、70点台で19.5%)。70点以上の人数は全体の35.0%で、昨年度に比べ減少した(昨年度41.5%)。40点未満の人数は全体の23.9%で、昨年度に比べ増加した(昨年度16.0%)。

〈表2〉について、大問別でみると、5の長文読解の正答率が低かった。対話文を完成させる適切な英文を選ぶ問題(2) 1①、③、④、情報活用の問題(3) 2の正答率は高かった。

〈表3〉について、1のリスニングは、正答率がここ5年間で最も高く、正答率は76.7%で、昨年度と比べ上昇した(昨年度71.8%)。

数 学

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	3	0.5
80～89	28	4.4
70～79	63	9.8
60～69	112	17.5
50～59	156	24.4
40～49	144	22.5
30～39	93	14.5
20～29	32	5.0
10～19	8	1.3
1～9	1	0.2
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した640人(13.3%)の結果である。

*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	(1)	98.0	
	(2)	96.8	
	(3)	93.8	
	(4)	94.5	
	(5)	75.4	
	(6)	81.1	
	(7)	80.6	
	(8)	95.0	
	(9)	52.9	
小計		85.3	
2	1	(1)	77.3
		(2)	70.0
		(3)	53.7
	2	(1)	81.1
		(2)	31.6
		(3)	28.5
小計		53.2	

大問	小問	正答率	
3	1	(1)	64.2
		(2)	22.9
	2	(1)	20.4
		(2)	2.0
小計		27.4	
4	1	(1)	84.8
		(2)	21.1
	2	(1)	24.8
		(2)	28.4
小計		39.8	
5	1	(1)	29.8
		(2)	19.5
		(3)	9.8
		(4)	0.5
小計		14.9	

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1	小問集合	84.2	76.6	75.6	77.8	85.3
2	資料の活用など	21.2	46.6	59.3	43.5	53.2
3	関数など	29.4	46.2	52.5	49.6	27.4
4	平面図形など	32.9	35.1	34.4	41.8	39.8
5	空間図形など	19.0	27.5	21.5	30.9	14.9

2 分析結果の概要

合格者の数学の平均点^(※)は、50.4点で、昨年度と比べ下降した(昨年度52.4点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,812人のものである。

〈表1〉について、50点台の人数が全体の24.4%で最も多い(昨年度も50点台で22.9%)。70点以上の人数は全体の14.7%で、昨年度に比べ減少した(昨年度19.7%)。40点未満の人数は全体の21.0%で、昨年度に比べ増加した(昨年度20.0%)。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は9問で、昨年度に比べ増加した(昨年度8問)。また、正答率40%未満の問題数は12問で、昨年度に比べ増加した(昨年度8問)。

1の(5)の式を展開する問いの正答率が75.4%とやや低かったが、問い全体の正答率は85.3%と昨年度に比べ高かった(昨年度77.8%)。

2の1の標本調査では、(3)の真偽の判断をする問いの正答率が53.7%とやや低かった。また、2の文字の式では、(2)の文字を用いて表現する問いの正答率が31.6%と低かった。

3の関数は、文章量が増えたことが影響したためか、問い全体の正答率が27.4%と低かった。特に、3の面積が等しくなる時間を求める問いの正答率が2.0%とかなり低かった。

4の平面図形では、1(2)の扇型の面積を求める問いの正答率が21.1%とかなり低かった。また、2(1)の相似を証明する問いの正答率も24.8%と昨年度に比べかなり低かった(昨年度54.7%)。

5の空間図形では、1の切り口の図形の名称を答える問いの正答率が29.8%と低かった。また、4の空間図形を平面上へ表現する問いの正答率が0.5%とかなり低かった。

〈表3〉について、1、2の正答率が昨年度より高く、3、4、5の正答率は昨年度より低かった。

社 会

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	10	1.6
80～89	53	8.3
70～79	125	19.5
60～69	131	20.5
50～59	128	20.0
40～49	112	17.5
30～39	38	5.9
20～29	31	4.8
10～19	12	1.9
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した640人(13.3%)の結果である。

*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	大問	小問	正答率		
①	1	(1)	86.1	③	1	(1)	26.3
		(2)	60.9			(2)	82.3
		(3)	33.1			(3)	71.6
		(4)	69.6			(4)	53.4
		(5)	19.0			(5)	ア 52.7
	2	(1)	79.7		イ 44.2		
		(2)	81.4		2	(1)	72.7
		(3)	58.1			(2)	85.5
		(4)	76.9			(3)	71.5
		(5)	ア			77.0	(4)
イ	50.7		イ 14.6				
小計			60.5	(5)	ウ 60.6		
②	1	(1)	94.4	エ 61.8			
		(2)	48.0	小計		55.0	
		(3)	70.5	④	(1)	43.4	
		(4)	ア		50.9	(2)	46.0
			イ		42.9	(3)	ア 58.3
	(5)	ウ	79.6		イ 45.8		
		エ	64.9		(4)	ア 66.4	
	2	(1)	75.1	イ 53.0			
		(2)	31.4	小計		50.8	
		(3)	74.8				
(4)		43.5					
(5)		ア	79.3				
	イ	54.8					
小計			61.7				

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
①	地理的分野	54.9	61.8	58.5	62.3	60.5
②	歴史的分野	61.6	56.8	60.5	52.2	61.7
③	公民的分野	52.3	54.9	57.0	45.6	55.0
④	3分野融合	31.0	68.9	43.8	45.3	50.8

2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点^(※)は、55.5点で昨年度と比べ上昇した(昨年度51.0点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,812人のものである。

〈表1〉について、60点台の人数が全体の20.5%で最も多い(昨年度は、50点台で18.3%)。70点以上の人数は全体の29.4%で、昨年度に比べ増加した(昨年度23.6%)。40点未満の人数は全体の12.6%で昨年度に比べ減少した(昨年度26.1%)。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は5問で、資料を用いて基礎的・基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった(①の1(1)、2(2)、②の1(1)、③の1(2)、2(2))。正答率40%未満の問題数は6問で、公民的分野の基本的な知識の定着(③の1(1))や、歴史的分野の各時代のできごとの流れを理解する能力に加えて(②の2(2))、資料をもとに知識を活用して判断したり、表現したりする力をみる問題の正答率が低かった(①の1(3)、1(5)、③の2(4))。

〈表3〉について、分野別の正答率は歴史的分野が最も高かった。昨年度との比較では、地理的分野が低くなり、他の2分野と3分野融合問題は高くなった。

理 科

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	5	0.8
90～99	46	7.2
80～89	110	17.2
70～79	117	18.3
60～69	121	18.9
50～59	97	15.2
40～49	65	10.2
30～39	54	8.4
20～29	22	3.4
10～19	3	0.5
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した640人(13.3%)の結果である。

*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率		
1	1	(1) 7	97.0	
		ゆ	95.9	
		(2)	66.1	
	2	(1)	91.3	
		(2)	47.7	
		(3)	70.8	
小計		76.5		
2	1	(1)	88.1	
		(2)	65.0	
		(3) 月	63.0	
		理由	72.5	
	4	7	76.4	
		い	59.3	
	2	(1)	88.6	
		(2)	57.2	
		(3)	56.3	
	小計		69.6	
3	1	(1)	51.7	
		(2)	55.5	
		(3)	8.4	
	2	(1) 71ゆ	68.6	
		aとb	62.0	
		bとd	60.2	
		(3)	31.4	
	3	(1)	54.5	
		(2)	56.1	
	小計		46.5	
4	1	(1)	96.1	
		(2)	84.5	
		(3) 7	77.2	
		い	89.2	
	2	(1) 7	93.8	
		い	72.6	
		(2)	41.5	
		(3)	70.8	
	小計		78.0	
	5	1	(1)	68.1
(2)			71.7	
2		(1)	32.7	
		(2)	56.4	
		(3) 記号	85.6	
3		内容	59.6	
		(1)	50.8	
小計		56.4		
6		1	(1)	84.5
			(2)	84.1
	(3)		70.9	
	(4)		81.7	
	2	(1)	66.9	
		(2)	29.1	
		(3) 記号	48.9	
	3	電力	49.9	
		小計		64.2

〈表3〉領域別の正答率の経年比較

領域	年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
3 ^{2,3} 6	(物理的領域)	43.9	63.1	47.9	57.2	60.6
3 ¹ 5	(化学的領域)	61.8	52.3	61.3	67.3	52.4
1 4 ²	(生物的領域)	72.9	73.0	69.4	66.0	75.3
2 4 ¹	(地学的領域)	54.6	66.0	57.5	68.3	74.9

2 分析結果の概要

合格者の理科の平均点^(※)は、62.2点で、昨年度に比べ下降した(昨年度62.8点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,812人のものである。

〈表1〉について、60点台の人数が全体の18.9%で最も多い(昨年度は、70点台で19.4%)。70点以上の人数は全体の43.5%で、昨年度に比べ減少した(昨年度44.7%)。40点未満の人数は全体の12.3%で、昨年度に比べ減少した(昨年度13.5%)。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は14問で昨年度に比べ増加した(昨年度7問)。正答率40%未満の問題数は5問で昨年度に比べ増加した(昨年度4問)。正答率が高い問題の多くは、基礎的・基本的な知識を問う問題であり、生物的領域である1¹や地学的領域である4¹が特に高かった。科学的に探究する活動を素材として、実験の結果を分析して解釈する問題である3³では正答率が低かった。水溶液の密度を求める3¹(3)、体系化された知識を用いて思考する問題である3²(3)や6²(2)では、特に正答率が低かった。

〈表3〉について、領域別の正答率は、生物、地学的領域が高く、化学的領域が低かった。昨年度との比較では、物理、生物、地学的領域の正答率が高くなり、化学的領域の正答率が低くなった。

IV 各教科の分析結果

国 語

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	640人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	2	0.3
80～89	35	5.5
70～79	117	18.3
60～69	144	22.5
50～59	140	21.9
40～49	113	17.7
30～39	61	9.5
20～29	22	3.4
10～19	5	0.8
1～9	1	0.2
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した640人(13.3%)の結果である。

*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率
一	問一	a) 94.8
		b) 84.1
		c) 90.8
	問二	48.3
	問三	74.1
	問四	68.2
	問五	26.8
問六	46.3	
小計		57.3
二	問一	a) 99.0
		b) 60.0
		c) 74.7
	問二	46.0
	問三	77.9
	問四	A) 64.2
		B) 50.1
問五	52.4	
問六	36.9	
小計		58.9
三	問一	79.5
	問二	56.4
	問三	1) 38.4
		2) 42.0
	問四	3) 49.1
		4) 46.2
	問五	5) 35.1
小計		48.6
四	問一	94.8
	問二	83.8
	問三	45.2
	問四	80.8
	問五	1) 60.8
		2) 48.6
	問六	54.8
小計		62.3

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一 文学的な文章	62.0	64.3	68.8	67.2	57.3
二 説明的な文章	50.3	62.8	57.4	65.3	58.9
三 言語活動	38.4	42.0	49.2	69.2	48.6
四 古典	59.4	51.2	58.9	52.0	62.3

2 分析結果の概要

合格者の国語の平均点^(※)は、55.2点で、昨年度と比べ下降した(昨年度62.7点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,812人のものである。

〈表1〉について、60点台の人数が全体の22.5%で最も多い(昨年度は、70点台で24.9%)。70点以上の人数は全体の24.1%で、昨年度に比べ減少した(昨年度39.7%)。40点未満の人数は全体の13.9%で、昨年度に比べ増加した(昨年度5.8%)。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は7問で、基礎的・基本的な言語事項を問う問題の正答率が高かった。具体的には、漢字の読み書き(一の問一など)、文語のきまり(四の問一)、主語と述語の照応(四の問二)、訓読の仕方(四の問四)の問題の正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は4問で、資料等を活用して説得力のある文章を書く力を問う問題の正答率が低かった。具体的には、登場人物の言動の意味を考える(二の問五)、文章の構成や展開について評価する(二の問六)、資料を適切に引用して説得力のある文章を書く(三の問三の1)、事柄や意見が相手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えて文章を書く(三の問五)の問題の正答率が低かった。

〈表3〉について、四の問題の正答率は昨年度より高かった。一方、一、二、三の問題の正答率は昨年度より低かった。